

福岡教育大学教職大学院 学級における特別支援教育の課題と実践 特別講義
演題「Welcome to the World of Autism Spectrum Disorder」(12月22日実施)
＜自閉症スペクトラムの世界へようこそ＞

福岡教育大学との共同研究プロジェクト モデル校の先生方も参加

講師 ポストン東スクール 森 由美子 (Educational Program Evaluator) 先生

ポストン東スクールの紹介

○アメリカ マサチューセッツ州のポストン郊外のレキシントンにある学校。

○現在も健常児と共に自閉症児が在籍し合計140名の生徒が、混合教育と生活療法による教育を受けている。

1997年には全米で7番目の優良校の認定を受けている。

○昭和62年に北原キヨさんが、24名の教職員を日本から引き連れて渡米し立ち上げた学校である。

○北原キヨさんの足跡

昭和39年 武蔵野東幼稚園開園

「生活療法」の誕生

52年 武蔵野東小学校開校

58年 武蔵野東中学校開校

59年 武蔵野東・国際学級開始

61年 武蔵野東技能高等専修学校開校

62年 ポストン東スクール開校

平成元年 北原キヨ博士 逝去(享年63歳)

他の幼稚園では入園を拒否された障害を持つ子ども達を武蔵野東幼稚園に受け入れたのを機に、子ども達に体当たりの指導を展開した。その取り組みの中から「混合教育」と「生活療法」を生み出した。東の子ども達に、親に、教師に、海外の人を含めた多くの人々に大きな夢を与え続けた教育者である。

「体と心は一体で、体を強くすれば、心も強くなる。」をモットーに日本及び世界の自閉症児への教育に献身的な努力をし、草分けとも言える存在であるのが北原キヨ先生である。

森 由美子先生 リサーチコーディネーター

福岡県福岡市出身。インターナショナル・スクールポストン東スクールでカウンセリング心理学の資格を取得するために実習をすることになったことが契機で、勤務することになった。IEP(個人別教育プログラムの)コーディネートを担当し、その後リサーチ部門の現在の職、教育効果の評価を行う(Educational Program Evaluator)についている。10数年になる。



自閉症スペクトラムの人たちに見られる特徴

○対人的コミュニケーション・スキル面

- 1 視線が合いにくい
- 2 人と会話をしたり人間関係を築いたりすることが難しい。
- 3 変わった、または奇妙な行動をする。
- 4 言語能力の遅れや欠如がある。
- 5 オウム返し会話
- 6 「心の理論」の欠如
- 7 含みのある言葉が理解できない。

○限定された反復的常同的な行動面

- 1 柔軟性に欠ける
- 2 特定の場所や物にこだわる。
- 3 変化・変更に適応できない。
- 4 ちびっ子教授のようなところがある。

このような特徴が見られる子どもをできるだけ早期(3歳くらいまで)に見つけて、適切な教育をしていくと、いろいろなことができるようになる、将来は自立した生活がおくれるようになる。

生活療法(Daily Life Therapy)の3つの柱

①体づくり ②心づくり ③知的開発

アメリカでは州によって法律が違う。したがってポストン東スクールは現在、マサチューセッツ州の法律によって、公的な援助も受けて運営されている。

創始者である北原キヨの考え方を生かし、健常児と障害児が混合教育を受けている。更に、先生が確立した生活療法の考え方で教育を実践している。

現在日本でもインクルーシブ教育が提唱されるようになったが、ポストン東スクールでは開校した1975年から貫いている。

体をつかう行事がふんだんに取り入れられている学校である。音楽・体育を中心に舞台上で生徒を輝かせる。

共同研究プロジェクト 特別支援教育モデル校

研究分担者及び両教育委員会からの参加者
宮崎教諭(中央中) 舛元教頭(自由ヶ丘小)
内藤指導主事(福津市教育委員会)
齊藤主幹指導主事 正路指導主事 田中教育連携コーディネーター(宗像市教育委員会)



自閉症スペクトラムの人たちへの周りからの支援について

- 1 自閉症スペクトラムについて正しく理解する。
* わがまま・性格・親のしつけによるものではない。
* 引きこもりや人間嫌いではない
- 2 障害や困難としていることではなく人としての特徴や長所に目を向ける。
* 褒める。* 輝く場
- 3 適切な手法や療法を用いる。
* はっきりとした見通し * 明確な指示
* 視覚的・聴覚的補助 * 肯定的な言葉
* 繰り返しの練習 * 一貫性
- 4 必要な支援や助けを提供する。
- 5 「同情(Sympathy)ではなく「共感(Empathy)」を

講義の最後にグループ・ディスカッション

米国連邦によって制定された「障害者教育法(1975～)」では3歳から21歳までの障害を持つすべての生徒が制約最小の環境で無料で適切な公教育を受けることができる・・・とされている。しかし22歳以降の成人自閉症スペクトラムの人に対する支援は、21歳までと比較すると放置とも言えるような状況になる。21歳までに手厚く教育していたのが、22歳になると指導的なことは言わなくなる。たとうまくできていなくても、「○○しない。」と言わなくなる。「それは、人間の権利なのか。」というテーマでグループ協議

＜協議の様子から＞

※日本では障害を持った人が成人した場合でも、うまくできない時は指示を出したり指導をしたりする。アメリカではしないと言うのは国の文化の違いかもしれない。

※その方が困っているのなら声をかけたり支援をしたりの方がいいのではないだろうか。

※小中高と一貫していくように大人になっても引き継がれていくようなシステムを構築する必要がある。

納富先生の挨拶: 大学院生だけでなく共同プロジェクトのモデル校の現職の先生方や宗像市福津市教育委員会の方々に講演を聴いていただけて大変うれしいです。